令和元度　第３回　多摩市スポーツ推進審議会　会議録（要旨）

■開催日時　令和元年８月８日（木）　 午後１時～３時

■開催場所　多摩市役所　４０１会議室

■出席委員　１０名

小林 勉委員、永吉 英記委員、甲田 不二男委員、岩井 啓子委員、石川 秀明委員、伊藤 智子委員、齋藤 裕委員、中村 一昭委員、若月 寛子委員、佐々木 雅士委員

■欠席委員　なし

■事務局

小林部長、小泉主査、加藤主査、杉山主事、植村主事

㈱地域計画建築研究所 東京事務所　黒崎氏　遠藤氏

■傍聴者　なし

■議事次第

１　　開会

２　　会議録（要旨）確認

３　　議事

（１）多摩市スポーツ推進計画（素案）について

４　　その他

５　　閉会

■配付資料

資 料 １　令和元年度第２回多摩市スポーツ推進審議会　会議録（要旨）

資 料 ２　多摩市スポーツ推進計画（素案）（令和元年８月５日時点）

会　議　録（要旨）

【１　開会】

事務局より配付資料の確認

【２　会議録（要旨）確認】

修正無く、承認された。

【３　議事】

多摩市スポーツ推進計画（素案）について

資料２に基づいて事務局より説明

会　長：事務局から説明があったが、気づいた点や指摘はないか。

委　員：コラムの写真の掲載数は１枚と決めているのか。例えば 31 頁のニュースポーツ体験教室には、ボッチャは載っているが、もう１枚くらい他のスポーツを入れても良いのではないか。

委　員：コラムの内容に沿ったものということで他市の写真を載せているのだと思うが、本市の計画なので本市の活動を取り上げた方が良いと思う。

会　長：前回、どの事例を載せるかという選択基準が難しいという議論をした。今回、大きな変化として本市以外の事例を載せている点がある。２つ考え方があり、一つは本市の計画として本市の事例を取り上げる考え方。もう一つは、本市は取り組んでいないが、他の自治体等の事例の中で、市民が新たなスポーツをつくっていくにあたりイメージしやすいものを取り上げていくという考え方。２つ目の考え方について、どのように思うか。

事務局：本市の事例を紹介したいという思いもあり、それぞれの施策に該当する事例が本市にあれば優先的に紹介し、無いものについては他市の事例を紹介している。本市以外のコラムについては、本市に良い例があるという意見が本日出れば、差し替えることも可能である。

委　員：他の自治体の事例を見ることで、読んだ市民が前向きになれるのではないか。

委　員：あえて他市の事例を載せているのは、事務局にそれらの事例と同じようなことを今後本市で実現したいという思いがあるということだと理解した。ただ、「ゆる部活」などの取り組みが今後、本市で出来るのかという点は考慮する必要があるのではないか。

委　員：「ゆる部活」は、今までにないようなゆったりとやる部活、という趣旨で高校では取り組みが一部で始まっているが、中学校ではまだ浸透していない。現在、「体育」から「スポーツ」に移行している節目だということを踏まえると、良い言葉を見つけるのは難しいと思うが、スポーツを推進する中で体育といった言葉も変わるきっかけになれば良いと思う。

会　長：「ゆる部活」という言い方は神奈川県厚木市だけなのか。

事務局：東京都世田谷区など他の自治体でも「ゆる部活」を実施している。生徒だけではなく顧問の先生にも歓迎されていると聞く。

委　員：市民が読むことを考えると、全体的にまだ堅いと感じた。もう少し大きな字や写真を増やすなど、読みやすいものが良い。「ゆる部活」というものがあるとは知らなかったが、説明を読むとわかったので、タイトルを大きくしたり、工夫があると良い。５頁の「２　計画策定の趣旨」では、本市は健幸都市を推進しているのに、健幸まちづくりのマークがないと思った。マークなど視覚的に入ってくるような工夫があると良いのではないか。前回の会議録３頁の意見に同

じだが、「思っていたような堅い計画書ではなかったが、読み進めると難しい言葉が使われている…」私もそう感じた。コラムがあるのは良いが、もう少し視覚に訴える工夫があれば良い。自分たちがスポーツと思っていなかったことが、スポーツになるという点がもう少し前面に出ると良い。

会　長：健幸まちづくりについては、考え方は素晴らしく異論はない。しかし、現市長の肝いりの政策なので、市長の任期終了後を考えると入れない方が良いということを事務局と議論し、健幸まちづくりの理念のみ盛り込むことにした。これからの本市のスポーツ推進を位置づける中で、はやり廃りでこの計画の内容が変わっていくことのないように、という私個人の思いを事務局と話して決めた。健幸まちづくりを否定しているわけではない。

委　員：趣旨はわかった。だが現在、学校でも健幸まちづくりのマークやオリンピック・パラリンピックのエンブレムを積極的に使用することを推進してい０る。今回の計画はその渦中にあるものなので、今の説明を知らない人は健幸まちづくりのマークが入っていないことが気になるのではないかと思う。

事務局：その通りだと思う。５頁の中ほどで追加した部分がまさにその内容となっている。また、冒頭に市長あいさつがあるので、市長の言葉として、そこに健幸まちづくりの文言は出てくるのではないかと想像する。

会　長：健幸まちづくりに関する表記の違和感は、市長あいさつで軽減されれば良いと思う。コラムがインパクトに欠けるという意見もあるが、コラムについてはどうか。

委　員：45頁に東京都の事例を載せているが、本市でも障がい者スポーツは行っている。本市の事例を載せた方が身近に感じてもらえるのではないか。また、活動の参加者の中には、本市で飲食店をやっている人もいる。そういうお店などの身近な情報が入れば面白くなると思う。

委　員：21頁の宇都宮市の事例も本市の事例に置き換えられるか。

委　員：21頁の宇都宮市の事例は、１㎞から５㎞の短いレースを実際にやっていることはインパクトのあることなので、そうした事例を載せることでいつか本市でもできれば良いと思ってもらえる。そういう意味で他市の事例を載せることは良いと思う。本市と他市の事例を枠線の色などで区分けすれば良いのではないか。

会　長：本市にないものは触発の意味も込めて他市の事例を載せる。だが、市内でも取り組んでいる事例もあるので、２つとも比較するようにして載せたい場合、コラム欄を大きくすることが考えられるが、事務局としてはどうか。

事務局：21頁「１－１　街なかにスポーツのある風景づくり」のコラムについては、今後の希望といった色合いが濃い。以前の審議会で意見のあった「街なかで武道祭をやりたい」というのをヒントに考えた。コラムの宇都宮市については、本市でロードレースの開催は難しいが、クリテリウムという市内を周回するレースであれば実現可能であると思い、オリンピック開催後に楽しめるスポーツの例として選んだ。また、45頁「５－５　スポーツを通じた共生社会の創出」の「共生スポーツ祭り」については、５月に実際見てきたが、障害の有無に関わらず、誰もが参加している祭りとして紹介したい意図でピックアップしたという経緯がある。事例は探している最中であり、時間はまだあるので様々な事例を調べてみたい。コラムの量についてはレイアウトも合わせて検討したい。

会　長：カラー頁になるのか。

事務局：カラー頁の予定である。

会　長：ビジュアルに訴えるという点で、色で分けることには効果がある。レイアウトやデザインの方向性は、色分けなどで工夫していくということで良いか。基本コンセプトは、本市の事例はわかりやすいように色で統一し、他市の事例については、触発する事例があれば入れる方向で良いか。量についてはレイアウトもあるので、事務局に一任する形で良いか。本日のこの場で、事例を紹介してもらえれば差し替えなども検討したい。21 頁の自転車の事例については、どうか。多摩市でも実施しているのか。

委　員：先日行った自転車のロードレースのテストイベントは、オリンピックのプレイベントなので、継続的なものではない。

会　長：では、本市に適当な事例がないので、例として他市を載せるということ良いか。その他に何かあるか。

委　員：23 頁の「１－３　日常生活で実践するスポーツ」で、花植えを取り上げているが、自治会で公園の清掃活動も行っているのでそれを紹介するのも良いと思う。前回、特定の地域だけを取り上げるのはどうかという意見が出たので、その点は考慮しなければいけないとは思う。22 頁の「１－２　健康チェックから始めるスポーツ」では各地区で行う健康診断の推進について等の記載があるが、体育の日の行う快汗スポーツ DAY でも体力測定を行っているので、取り上げてはどうか。

会　長：快汗スポーツ DAY は市民にも浸透しているのか。

事務局：体育の日の事業としてイベントを行っており、総合体育館では体力測定も行っている。今年も体育の日に行う予定である。毎年、この場で自分の体力測定をしている市民もいる。

会　長：慣例になっているのであれば、整理して載せるのが良いと思う。

事務局：22 頁でイメージしているのは、医者に言われてスポーツをするのではなく、身近な健康チェックで気軽にスポーツに取り組んでいけることを伝えたい。

委　員：総合体育館と体育の日のイベントの２つ載せるのはどうか。ニュースポーツも実際はもっと活気があるのに、写真が寂しいと感じた。

会　長：今回は時間的な制限もあって仮置きの写真だと思うので、参加したくなる写真へと変えてほしい。23 頁についてはどうか。

委　員：当初、花を植えることがスポーツとは結びつかなかった。

会　長：ゴミ拾いを競争化し、スポーツとしているものもあった。そういった事例を載せると花植えもスポーツとして捉えやすくなるのではないか。

委　員：他市ではクリーン作戦といって、市で大々的に行っている清掃がある。そういったことも紹介すれば良いのではないか。

委　員：掃除ではないが、多摩市グリーンボランティアがある。木を切ったりするだけで汗もかくし、これもスポーツになると思う。事前講習もあり、チェーンソーを持って八ヶ岳へ行き、地域の人と交流する機会もあったりする。仲間づくりにもつながる良い事例だと思う。

委　員：活動は様々あるので、何を載せるか考えるよりもコラムの上に「ボランティアがスポーツになっている」などリード文を入れてその紹介として写真を入れるなど、そういう雰囲気のものが良いのではないか。事務局が今後取り組みたいという意図があっての紹介は、読み手としては、写真を見ると実際に本市で行うのだなと捉えると思うので、リード文などがあれば、今後やり

たいといった意図がくみ取りやすくなると思う。

事務局：今の話は理解できるが、実際には難しいと考える。主催団体は我々の解釈とは違う目的でやっている場合もある。それを我々の解釈でスポーツとして載せている。福祉活動や環境活動として行っていることも、スポーツとしてやりましょうという考え方でやっているので、了解を得られるか難しい場合がある。

委　員：こういうのもスポーツと考えましょう、という書き方でやるのはどうか。

事務局：それは一貫してその考え方で行っている。

委　員：載せるにあたっては、それぞれの団体に許可は取らないといけないのではないか。

事務局：許可は取る。本市はもちろん、他市ついても自治体を通して許可を取るが、解釈については難しいと思う。コラムの内容だけでなく、コラムまでの導入をわかりやすくすることについても考えたいと思う。

会　長：そのチェックは学識経験者以外の委員がした方が良いと思う。

事務局：コラムについては、まだ時間があるのでより良いものにしたい。これから庁内各課にも照会かけるので、そちらでも意見や事例が出てくると思う。

会　長：コラムについては、第一次締切りとして、８月 20 日を目処に意見を出してほしい。

会　長：リード文が、コラムの内容を説明するエッセンスになると良い。ただ、コラムによってリード文があったりなかったりすると、読みづらくなるので、今後検討していくということ良いか。

委　員：５頁「２　計画策定の趣旨」に「スポーツが市民に広がっていくきっかけとして、本計画が広く市民に活用されることを願っている」の記載があり、49 頁「推進に向けて～３つの推進力〞３Ｃ〞～」には、で「計画の実現に向けては、実効性を高めていくことが大切」との記載があるので、19 頁からの「Ⅲ　施策の展開」では実現に向けて本市がスポーツの計画推進をいかに取り組むかという大事な点である。読みやすく広く市民に知られて活用されるためには、リード文があった方が良いのではないか。

会　長：今の意見にあったように、３つの推進力は大事なキーワードである。リード文は入れる方向で考えたいが良いか。

事務局：コラムは、人によって解釈が違うので、その事例を考える余白は残したい。

委　員：だがリード文がないと、宇都宮市の事例のように、なぜ他市がいきなり出て来るのかと思うのではないか。市民は読まずにいきなりコラムを読む場合もあると思う。

会　長：宇都宮市のジャパンサイクルロードレースの事例を載せるかどうかも含めて検討するということで良いか。

事務局：確かに一番始めのコラムが他市の紹介というのもわかりづらいかもしれないので、検討する。本市の紹介ができるのが一番良いが、行政計画として、本市が発展していく姿も表したい。ただ、多くの人が違和感を覚える説明になるのは残念である。広く受け入れられることが大事ではないか。花を植える活動も花が好きな人が写真を見た時に、スポーツと思ってくれるか、など多様な考え方があることを理解して、様々な人が読んでも違和感のないような内容が良いと思った。

会　長：次の審議会はいつか。

事務局：10 月中旬を予定している。パブリックコメントで出た意見を反映した計画案を確認してもらう予定である。

会　長：パブリックコメントにもコラムの欄は記載するのか。

事務局：記載する予定である。

事務局：今の話の中でコラムにインパクトがあるようにといった話があったので、意見を聞きたい。写真を大きくして最初に載せて、キャプションを載せる。その後に文章で説明するというのはどうか。その方がインパクトもあるし、内容も伝わりやすいのではないか。

会　長：異論はないか。

委　員：良いと思う。今のコラムでは、写真を見てスポーツをしようという気にはならない。文ばかりでなく視覚に訴えることが大事ではないか。

委　員：字ばかりの部分は読まず、目に入った写真の頁を見るという人も多いと思う。

会　長：今の話にあったように、意図をリード文で説明し、写真キャプションが入り、説明があると読んでもらえる可能性が広がると思う。そういった方向性で、意見を８月 20 日までに出してほしい。

委　員：一目でスポーツだとわかる写真にしてほしい。コラムを見ても、取り組み例を見てもらえないのではないか。こういうスポーツがある、ということをわかりやすくしてほしい。誰が見るのかを意識してほしい。

会　長：学識経験者の見解より、他の審議委員に目を通してもらった方が良いと思う。コラムについてはそれで良いか。８頁「３　スポーツへの関わり方については」は前回の意見を受けて変わっているが、どう思うか。

委　員：８頁にオリンピック・パラリンピックについての記載があるが、本審議会では、あまり触れていない。オリンピック・パラリンピックへ向けて、審議会としての意見があっても良いのではないか。

会　長：審議会として、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けての話はしていないが、事務局はどう考えるか。

事務局：８頁の表記は、現時点で関わっている「みる」スポーツ、「する」スポーツ以外に、オリンピック・パラリンピックの経験を通じて、新たな関わりのスポーツの発見や考えという意味のリード文で書いた。本市で何かをつくっていく、というのではなく、オリンピックの成果はまだわからないが、本市らしいスポーツへのあり方に何かしら残していこうという思いでつくった。

会　長：オリンピック・パラリンピックのレガシーを３つの推進力に結びつけていき、これをきっかけにスポーツを精力的に行っていこうということだと思う。

委　員：了解した。「ささえる」スポーツや「みる」スポーツなどについて、オリンピック・パラリンピックは非常にインパクトがあり、市民がスポーツの影響を受ける良い機会である。それについて審議会がどう見ているかという考え方が大事だと思う。特に「ささえる」スポーツに関して、ボランティア活動やニュースポーツについて関わる機会になると思う。

事務局：オリンピック・パラリンピックが開催されていることは決まっているので、それをどう活用していくかという視点で考えている。

委　員：家の中に閉じこもっている市民を外に引き出すということだと思う。高齢者社会になって行く中で、家にいる人たちを外に引き出す、外に出てコミュニケーションを生み出していくという方向が大事だと思う。

委　員：文章が堅いのではないか。新しいスポーツと出会って楽しむといった表記にした方が良いと思

う。今の表記では、何をしたいのかがわかりづらい。８頁の「未だ出会っていないスポーツとの新たな関わりを市民と一緒に創り出していくことを大切にしていく」という表記は良いと思うが、「オリンピック・パラリンピック競技大会の成果を多摩市で活かす」ではわかりづらい。市民が成果を活かして楽しんでいくのではないか

会　長：今の意見を汲んで、修正・検討してほしい。

委　員：８頁図の説明の部分だが、「みる」スポーツなど、下の図には括弧がないので、すべてに括弧をつけるなど統一した方がよい。

委　員：16 頁「５　施策の体系」の「基本目標」に「みんなが笑顔」とあり、今ゴルフのニュースなどで笑顔が話題になっているので、そういった旬の話題と結びつけても良いのではないか。

委　員：17 頁の重点施策の説明文「深く取り組んでいきます。」は、「重点を示しています」といった表記の方がよいのではないか。また、重点施策を★マークで表しているが、コラムにも★マークがあるので、混合してしまうのではないか。

会　長：他に気になった点があれば挙げてほしい。

委　員：34 頁「３－３　特色のあるスポーツ施設の有効活用」だけ、「主な取り組み」になっているが、他頁はすべて「取り組み例」となっているがいいのか。

事務局：34 頁も「取り組み例」とする。

委　員：表記の問題で、ウォーキングサッカーか、ウォーキングフットボールかどちらか。

委　員：どちらでも良い。日本人に親しみのある言葉はサッカーで、世界的にはフットボールだと思う。日本ではサッカーの方がわかりやすいのではないか。

会　長：サッカーで良いと思う。本日の意見を事務局へ一任し修正してもらう。今後は、パブリックコメントの意見も受けて修正する。８月２０日までにコラム欄を中心に審議会委員からの意見を事務局へ寄せてほしい。最後に、各委員から本日の審議会の感想を聞かせてほしい。

委　員：様々な意見をみなさんから聞けて良かった。体育協会に関わっている身で考えると、感慨深いものがあった。

委　員：前回、新しいスポーツ、楽しいスポーツの話しが出たが、今はスポーツが変わる時期だと思う。体育協会もスポーツ協会に名称を変えるといったように、表現も変わっている。スポーツ推進委員も変わりつつある。楽しめるスポーツが根付いてくれると良い。

委　員：コラムがどのように変わるか楽しみにしている。スポーツ推進計画を見て、本市の市民がスポーツにたくさん触れてもらえれば、成功となるのではないか。

委　員：私はスポーツに詳しくない市民なので、その立場で意見が言えてよかった。これを機会に小学校でもスポーツというのは体力向上のための激しいものだけでなく、楽しむものだということを広めていきたい。

委　員：素案を見やすく、わかりやすくするというのを、どこまでできるのか、概要版に期待したい。概要版が見やすいものであれば、それが基になり良いものができるのではないかと思う。

委　員：信頼関係のもと、率直に本市のスポーツのことを話せて良かった。審議会は自分もスポーツをしようという励みにもなった。市民や本市で働いている人、皆さんが本市を好きでそれが漂っている市であるといいなと思う。

委　員：スポーツ推進計画ができた後が大事だと考えている。スポーツに携わっている一人として、皆さんにスポーツを楽しんでもらうために何をすればいいのか。スポーツにのめり込んでもらえ

るものをつくっていけるようにしたい。

委　員：来年のオリンピック・パラリンピックを東京でやることによって、猛暑はスポーツをやってはいけないという風潮になってほしい。

委　員：国士舘大学の学園祭が１１月１６、１７日にある。この何年間か行っているスポーツ教室を開催し、大学生が多摩市の子どもへ１０種目以上のスポーツを教える予定である。大学ではラグビーとアメリカンフットボールの共通グランドの芝生を前面張替えし、観客席も新たに設けて「みる」スポーツを充実させている。トイレも新しくし、外部の人が観戦しやすい環境を整備している。

委　員：市外の子どもも参加できるのか。

委　員：参加できる。

会　長：空調設備のない体育館は、夏季はとても暑いと思う。私が所属する大学の体育館も空調設備が設置されたのは最近のことで、構内の他の施設でも簡易な空調設備を設置するという流れになっている。スポーツ環境についても、昔のような根性論から変わってきている。そうした考え方へ、東京オリンピックを機に変わっていくと良いと思う。私自身も勉強になった。

【４　その他】

第９回審議会について

日時：１０月２１日（月）１６：３０～

第１０回審議会について

日時：１１月１４日（木）１６：３０～

【５　閉会】